

口内炎・歯周炎治療剤

デスパコーワ 口腔用クリーム

DESPAKOWA ORAL CREAM

承認番号	22000AMX00930
薬価収載	2008年6月
販売開始	1965年11月
再評価結果	1989年3月

貯 法：室温保存
使用期限：外箱等に表示

禁忌(次の患者には使用しないこと)

- (1) 口腔に結核性、ウイルス性、その他化膿性の感染症がある場合〔感染症を悪化させるおそれがある。〕
- * (2) 本剤の成分又はクロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者

組成・性状

販売名	デスパコーワ口腔用クリーム	
成分・含量	1g中	
	クロルヘキシジン塩酸塩	3mg
	ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	1mg
	ヒドロコルチゾン酢酸エステル	5mg
	濃ベンザルコニウム塩化物液50	0.4mg
添加物	グリセリン、流動パラフィン、セタノール、ジメチルポリシロキサン、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ステアリン酸ソルビタン、カルボキシビニルポリマー、マクロゴール、水酸化Na、グリチルリチン酸2K、パラベン、香料	
色調・剤形	白色～淡黄白色の粘着性のあるクリーム(芳香、甘味を有す)	

効能・効果

アフタ性口内炎、孤立性アフタ、褥瘡性潰瘍、辺縁性歯周炎

用法・用量

本剤の適量を1日3～4回炎症部位に塗布する。

使用上の注意

1. 重要な基本的注意

- (1) 重篤な感染を伴う場合には使用しないこと。やむを得ず使用する必要がある場合には、あらかじめ適切な抗菌剤(全身適用)などによる治療を行うか又はこれらとの併用を行うこと。
- (2) 連用に際しては、副作用の発現に注意し、必要最小限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。
- * (3) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

* (1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー(頻度不明)：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

* (2) その他の副作用

	0.1～5%未満	頻度不明
口 腔	舌のしびれ、味覚異常、口内炎、黒舌症等	真菌性感染症 ^{注1)} 、細菌性感染症 ^{注1)}
過 敏 症 ^{注2)}		過敏症状
下垂体・副腎皮質系機能		下垂体・副腎皮質系機能の抑制(長期連用による)
消 化 器	胃部不快感、胃部膨満感、嘔吐、下痢等	

注1) 適切な抗真菌剤、抗菌剤等を併用し、症状が速やかに改善しない場合には使用を中止すること。

注2) 使用を中止すること。

3. 妊婦、産婦、授乳婦等への使用

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には長期使用を避けること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

4. 小児等への使用

長期連用により発育障害を来すおそれがある。

5. 適用上の注意

- (1) 使用後：しばらく飲食を避けさせること。
- (2) 使用部位：眼科用として使用しないこと。

臨床成績^{1)～6)}

一般臨床試験の概要は次のとおりであった。

疾患名	有効率
アフタ性口内炎・孤立性アフタ	77.9%(162/208)
褥瘡性潰瘍	92.9%(26/28)
辺縁性歯周炎	55.2%(111/201)

薬効薬理

ラットの背の片側に本剤を、もう一方に本剤からジフェンヒドラミンサリチル酸塩を除いたものを塗布した比較試験で本剤の方がより強力な抗炎症作用を示した⁷⁾。

有効成分に関する理化学的知見

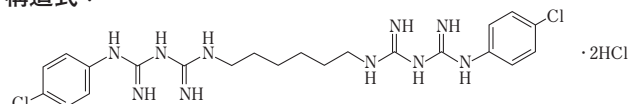
1. クロルヘキシジン塩酸塩

一般名：クロルヘキシジン塩酸塩

(Chlorhexidine Hydrochloride)

化学名：1,1'-Hexamethylenebis[5-(4-chlorophenyl)biguanide] dihydrochloride

構造式：



分子式：C₂₂H₃₀Cl₂N₁₀·2HCl

分子量：578.37

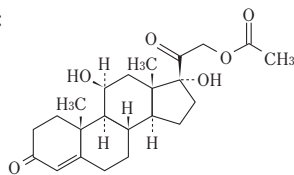
性状：白色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。胃酸にやや溶けやすく、メタノール又は温メタノールに溶けにくく、水、エタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。光によって徐々に着色する。

2. ヒドロコルチゾン酢酸エステル

一般名：ヒドロコルチゾン酢酸エステル(Hydrocortisone Acetate)

化学名：11β,17,21-Trihydroxypregn-4-ene-3,20-dione 21-acetate

構造式：



分子式：C₂₃H₃₂O₆

分子量：404.50

融点：約220℃(分解)

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。1,4-ジオキサンにやや溶けにくく、メタノール又はエタノール(95)に溶けにくく、水にほとんど溶けない。結晶多形が認められる。

3. 濃ベンザルコニウム塩化物液50

一般名：濃ベンザルコニウム塩化物液50

(Benzalkonium Chloride Concentrated Solution 50)

分子式及び分子量等：

[C₆H₅CH₂N(CH₃)₂R]Clで示され、RはC₈H₁₇～C₁₈H₃₇で、主としてC₁₂H₂₅及びC₁₄H₂₉からなるものの水溶液。定量するとき、50.0超～55.0%のベンザルコニウム塩化物(C₂₂H₄₀ClN：354.01として)を含む。

性状：無色～淡黄色の液又はゼリー様の流動体で、特異なおいがある。水又はエタノール(95)に極めて溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。水を加えた液は振ると強く泡立つ。

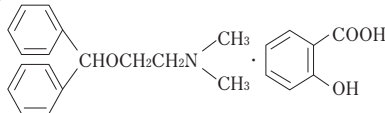
4. ジフェンヒドラミンサリチル酸塩

一般名：ジフェンヒドラミンサリチル酸塩

(Diphenhydramine Salicylate)

化学名：2-Benzhydryloxy-*N,N*-dimethylethylamine monosalicylate

構造式：



分子式：C₁₇H₂₁NO·C₇H₆O₃

分子量：393.48

融点：107～109℃

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は初めはないが、後にわずかに苦く舌を麻ひする。メタノール、酢酸(100)又はアセトンに溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けやすく、水に溶けにくい。光によって徐々に変化する。

包装

5g×10

主要文献

- 1) 松田 登他：歯界展望, **22**, 256(1963)
- 2) 竹腰洋三他：歯界展望, **23**, 302(1964)
- 3) 大沢林之助他：臨床と研究, **43**, 803(1965)
- 4) 可児 瑞夫：歯界展望, **31**, 1071(1968)
- 5) 朝倉昭人他：歯界展望, **59**, 619(1982)
- 6) 志村介三他：基礎と臨床, **15**, 5163(1981)
- 7) 興和(株)社内資料：血管透過性抑制作用

** 文献請求先及び問い合わせ先

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

興和株式会社 くすり相談センター

〒103-8433 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

電話 0120-508-514

03-3279-7587

受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日・弊社休日を除く)